

週刊 教育資料

2017年4月17日号

No.1429

EDUCATIONAL PUBLIC OPINION

<http://www.kyoiku-shiryō.co.jp>

>>> 好評連載

- 校長講話【地域から届いた情報を学校通信で紹介する】野口晃男／前盛岡大学非常勤講師
- 法律相談【フリースクールでの学習と指導要録上の出席扱い】三坂彰彦／弁護士
- 特別企画【授業時数の確保、モジュール学習の留意点は？】



資料【全国学力・学習状況調査における中学校の英語の実施に関する最終報告(概要)】

◎全国的な学力調査に関する専門家会議

▼マイオピニオン【学校で「つながり」を学ぶ】

◎貝塚茂樹／武蔵野大学教授

▼危機管理【小学生のいじめ・不登校で、損害賠償が棄却された事例】

◎梅澤秀監／東京都立雲谷高校(定時制)主幹教諭

▼潮流【思いっきり自分を表現する子どもにも】

◎柴崎嘉寿隆／特定非営利活動法人子ども未来研究所理事長◎

柴崎嘉寿隆

しばさき・かずたか◎(株)クエスト総合研究所代表取締役。JIPATTディレクター。立教大学卒。1989年大宮青年会議所の小学生を対象とした体験学習の企画・運営に参加、翌年から独自の事業としてグロースセミナーを開始。1999年に特定非営利活動法人子ども未来研究所を設立。著書に「自分セラピー／自分を好きになれる本」など。



柴崎嘉寿隆氏に聞く①

特定非営利活動法人子ども未来研究所理事長

潮流◆題字 奥野誠亮

潮流

思いっきり自分を表現する子どもに

1990年頃から野外体験学習を開始。
アートセラピーの手法で心の予防教育や
事件・災害での心のケアにも取り組み、
自由に自分を表現することを応援してきた。

1990年代から野外体験学習に

——子ども未来研究所の設立の経緯や主な活動などについて教えてください。

私たちは、「子どもたちが思いっきり自分を表現する」ことを応援しています。子どもたちは大自然や人、アートとのふれあいを通して、自分らしさをどんどん成長させていきます。また、私たちは子どもたちに関わる大人たちのための「心の教育機関」として、何かが起きてからの心のケアだけでなく、それを予防するための心の成長が何よりも大切と考えています。

そのために、1990年代頃から「グロースセミナー」という小学生のための自立に向けたキャンプなどの野外体験学習を開始しました。その後、アートセラピーの手法を活用して事件や災害後の心のケアなどの「社会貢献活動」、「心の予防教育」となる教室などの活動、「これらを提供するセラピストの養成と質的維持」など、大きく四つの事業を展開しているところです。NPO法人としては1999年に認証を受けています。

——四つの活動・事業について、具体的にどのような活動をされてきたのですか。心のケアなどの社会貢献活動では、20

00年12月31日に東京の世田谷区で起こった一家殺害事件後の地域住民と被害に遭った子どもと同級生たちへの心理ケア、2004年からは中越地震後の被災者への心理ケアなど、また東日本大震災後の被災者への心理ケアなどに取り組んできました。

心の予防教育では、幼児から小学生向けのアートワークセラピー教室の運営などを通して、子どもたちのアート表現を評価の対象としないで、その子ども自身の内的で自由な表現として受け止めて認めていくことを大切にしてきました。

自立のための教育プログラムとしての野外キャンプ活動では、「自分で決めて、自分で行動して、自分でほしい結果を創り出していく」ことをねらいとしています。これは北海道、長野、関西などで実施しています。セラピストなどの養成やその質の向上では、各教室などを主催しているセラピストなどへのスーパーバイズやブラッシュアップセミナーなどを実施しています。

——学校などでの図工は教科ですから、どうしても指導や評価の問題が出てきます。例えば、絵を描く活動の場合、対象を画用紙の中に再現するという活動にとどまらず、そのことを通して自分の内面を表出する活動でもあります。ですから狭い意味で

の美術教育とは区別される面があるものの、実際には表裏一体のものとして内面を表出することにも大切な役割があるのです。

このような研究や実践は日本よりも欧米の方に蓄積があります。例えば、アートセラピーのアメリカにおける先駆者として知られているナウムブルグ博士らは、自分の内面をアートを通して表出する活動自体に価値があると指摘しています。つまり子どもがアートを通して自分について知ったり気づいたり、考えたり、友達に語ったりすることで心が育つという側面があります。これは心の発達に課題がある人などにも効果があります。自分の心の中の整理にとどまらず、他の人とのコミュニケーションを含めて、社会的な関係も改善されていくきっかけになることがあるからです。特に言語で自分の気持ちをうまく表現できない子どもであっても、アートの表現で自分の思いを伝えることができるのです。

心の中を解放する役割も

——言葉でうまく表現できない自分の内面を絵で表現することがありますね。

以前、福島県に家族で転居したことで、子どもが毎日、黒い色しか使わなくなったという相談を受けたことがあります。

ところが、2〜3カ月続いた後に、その子どもが電車の絵を描くようになりました。どうも、自分の知らない土地に引っ越した不安の気持ちを黒い色で表現していたようで、やっと自分の居場所を見付けたことで心が解放され、その黒い「トンネル」から抜け出したことを「電車」で表現していたようです。

こうしたケースで注意すべきことは、周りにいる大人が、何かを「解釈」しようとして、いろいろ聞き出したりすることです。そのことが子どもの自由な表出を止めてしまふことがあるからです。ですから、アートセラピーの教室では、絵の「描き方」などの方法を教えたりすることもなく、単に素材となるものを用意して、それを使って子どもが自由に遊べる環境にすることが大切と考えています。

——解釈や評価は、大人の方で「先走り」するということがあるのですね。

そうですね。同時に、子どもが表現したものについては、どんなものであっても「上手」とか「よく描けたね」などの褒め言葉をかけるのではなくて、子どもからどんなものをそこに現したのかをたくさん聞いてみてほしいのです。そこには、その子どもの「物語」があり、さまざまに表現さ

れていることが分かります。表現の「善し悪し」ではなく、表現されているもの自体をその子どもの個性として、丸ごと、受け止めることが大切なのです。

——それは結果として描かれたものというよりは、その過程について注目するということでしょうか。

私たちはプロセスを大事にしており、「着地」したものである作品の評価はほとんどしません。それよりも、何かを表現しようとする時の子どもたちの目つきや様子などを見ておくことが重要です。言葉を掛けるとすれば、子どもが表現しているものを褒めるのではなく、「楽しそうにしていたね」「見ているとワクワクするよ」「私たちも嬉しくなったよ」と、その子どもが行為全体を認めてあげることが大切です。作品について評価することは学校に任せ、私たちは子どもが自由に内面を表現できる安心・安全な環境を用意するというスタンスを重視しているわけです。

「創造力」の「育成」

——環境づくりで大切にしていることは、私たちが大切にしていることは、「想像力」によって自らの人生を豊かに「創造」していくという、二つの「そうぞう」力

です。つまりイメージの「想像力」とクリエイティブの「創造力」の二つの力を育てることです。子どもが持っている本来の個性というものは、こうした点からしか出てこないように思います。そもそもこれらの力は、特に「創造力」は人から教えられて身に付くものではありません。自分の内面のイメージを外部に表出するところにアートが生まれるわけですから、そうした表出がしやすいような環境を整えていくことが重要であると受け止めています。

——アートワークセラピー教室には、子どもたちが夢中になりそうな、様々な素材があるのでしょうか。

私たちが実施しているアートワークセラピー教室では、アートワークセラピストが子どもたちに関わっています。子どもたちが自分を表現すること、自分を認めること、他者を尊重すること、自分を認めています。これらは子どもでも大人でも、自分が生きて、人と関わっていくために大切な力です。特に、子どものクラスでは、①感情を十分に発散し、心の安定をはかる②自分の心の声に耳を傾ける③自分を認める力を養う④想像力を育てる⑤他の人を認める力を養うを目的としています。

そのために教室では、絵の具、粘土、パ

ステル、季節の自然素材など、さまざまな素材で遊べるようにしています。子どもたちは体全体で表現しながら、五感を育てながら、生きていくうえで大切な力を体験的に学んでいます。

——五感を使うと、子どもたちはどんな様子なのでしょうか。

例えば、さまざまな色の「絵の具」や「スライム」を直接、自分の手足を使って、触れたり、描いたりして五感を刺激することを楽しんでいます。家ではできないこと、例えば大量のトイレットペーパーを使って画材にしたり、シュレッダーで裁断された大量の紙で遊んだ後、霧吹きで色づけしていたりします。枯れ葉に全身で埋もれることで、季節を文字通り体で味わう遊びも子どもたちは夢中になります。

教室は10人程度の少人数で、私たちの団体に認定したアートワークセラピストが寄り添って見守っています。現在、こうした教室は幼児（2〜6歳）、小学生のクラスのほか、保護者のためのクラスを設けて、全国各地で実施しています。無料で体験できる機会もありますので、学校の関係者の方も、見ていただければと思います。

特定非営利活動法人子ども未来研究所

<http://www.cof.or.jp/>